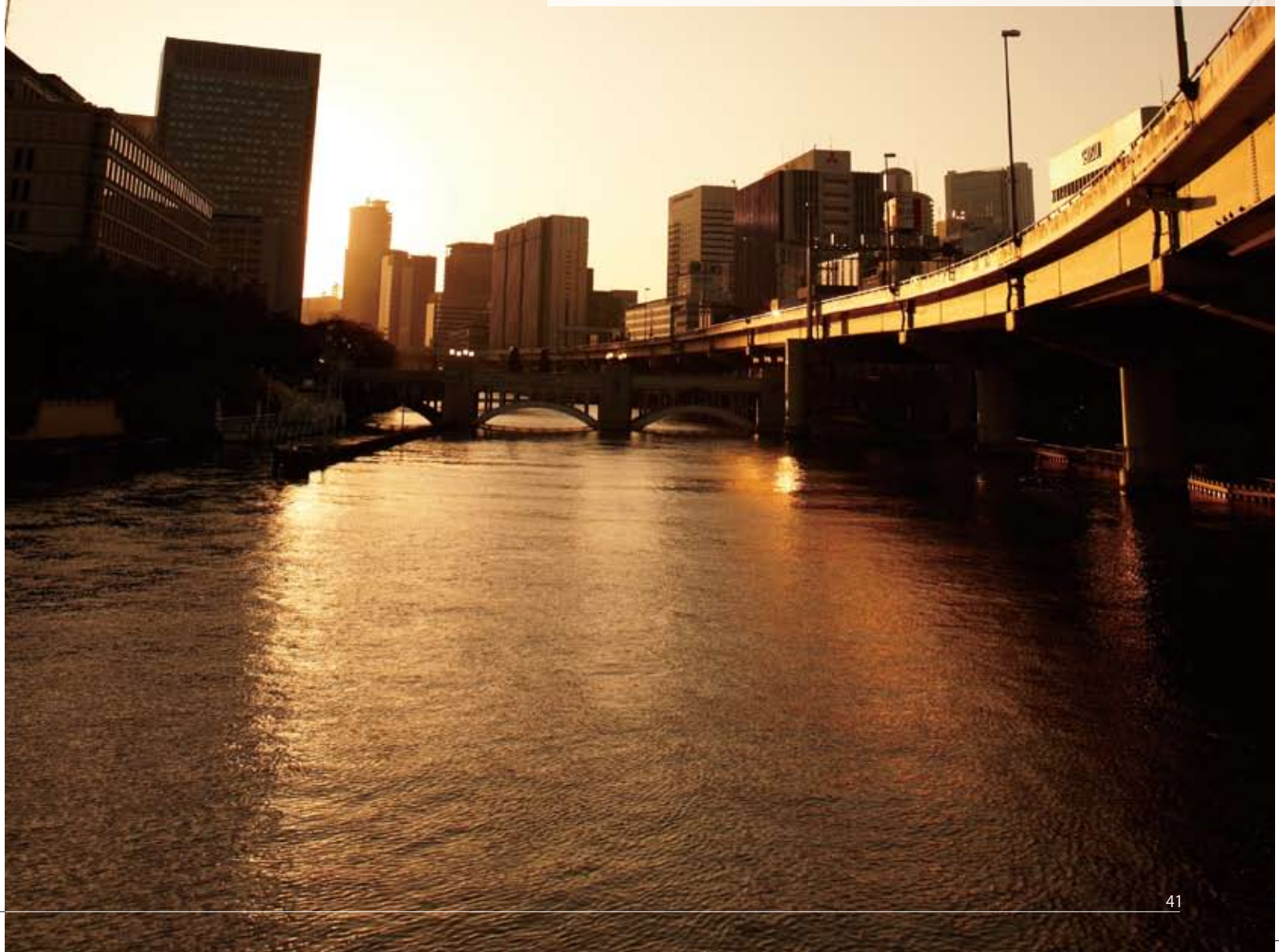


「資料編 / 読む記録」

「水都大阪2009」は、多くの団体・企業・アーティスト・市民、そして190万人にもものぼる来訪者に支えられて、無事幕を閉じることができました。しかし、水都大阪の再生はこれで完了したわけではありません。本イベントのキーワード“連携・継承・継続”にあるように、大阪の都市再生、「水の都」の復興は、むしろ起点に立ったばかりです。

資料編では、大阪のまちづくりのムーブメントをさらに高め、次世代へバトンタッチするために残しておきたい、諸情報をまとめています。





「水都大阪2009」開催までの経過

平成13年12月、国の都市再生本部において、第3次都市再生プロジェクトとして「水都大阪」の再生が決定された。それを受け、平成14年10月、水の都大阪再生協議会(会長:大阪商工会議所会頭)が設立され、大阪市域の約1割を占める河川を活用しながら、新たな景観づくりやにぎわいづくり、環境づくりに努め、水を活かした新たな都市魅力を創出し、大阪都心部の再生につなげていくこととなった。

また、平成14年9月30日に設立された「花と緑・光と水懇話会」(座長:大阪市長)において、大阪の活性化のために「水の都」の魅力を最大限に活かしたまちづくりの取り組みについて協議されるなかで、水都大阪のシンボリックな場所である中之島周辺や道頓堀など、水の回廊として、ある程度ハード整備が終わるので、それに伴うソフト面の取り組みを強化し、より一層活性化を図ろうという声が上がってきた。

そして、大阪の活性化のために、歴史的、地理的、文化的都市資産を最大限に活用したまちづくりの重要性を認識し、大阪府、大阪市、経済界が一体となって、水の都・大阪の魅力を多くの方に伝えるため、シンポライトを実施することになった。平成19年(2007年)5月に大阪市長を会長とする水都大阪2009実行委員会が設立され、7月には国の在阪機関にも参画いただき、文字どおりオール大阪で取り組むこととなった。

●水都大阪2009立ち上がりからフィナーレまで

年 月 日	実 施	備 考
平成13年12月	「都市再生プロジェクト」	内閣官房都市再生本部において「水都大阪の再生」を決定。
平成14年9月30日	「花と緑・光と水懇話会」設立	
平成14年10月1日	「水の都大阪再生協議会」設立	
平成14年11月6日	第1回「花と緑・光と水懇話会」	
平成14年12月18日	第2回「花と緑・光と水懇話会」	
平成15年3月17日	第3回「花と緑・光と水懇話会」	「大阪花と緑・光と水まちづくり提言」、シンポライトの開催提言。
平成15年3月31日	第3回「水の都大阪再生協議会」	「水の都大阪再生構想」、シンポライトの開催提議。
平成16年4月30日	第4回「花と緑・光と水懇話会」	2007~2009年でのシンポライト開催をめざす。
平成16年10月22日	第5回「花と緑・光と水懇話会」	
平成16年12月6日	四者懇談会(秋山会長、野村会頭、太田知事、關市長)	一過性でないイベントを企画・検討することを合意。
平成17年1月26日	第8回「花と緑・光と水懇話会」幹事会	「シンポライト企画検討委員会」の立ち上げに合意。
平成17年7月14日	第1回「シンポライト企画検討委員会」	シンポライトの基本理念等の確認。
平成17年9月29日	第2回「シンポライト企画検討委員会」	事業の骨格について検討。
平成18年3月30日	第3回「シンポライト企画検討委員会」	事業概要(案)の策定作業。
平成18年5月8日	第6回「花と緑・光と水懇話会」	基本方針、基本コンセプト、2009年開催の決定。
平成18年7月20日	第4回「シンポライト企画検討委員会」	
平成18年10月1日	「(仮称)水都大阪~花と緑・光と水2009~」推進準備室を設立	
平成18年11月14日	第5回「シンポライト企画検討委員会」	
平成19年1月17日	第6回「シンポライト企画検討委員会」	
平成19年3月23日	第7回「シンポライト企画検討委員会」	基本計画最終案・プロデューサー及び運営体制案とりまとめ。
平成19年5月7日	第7回「花と緑・光と水懇話会」	基本計画の策定。プロデューサー等及び運営組織体制の決定。
	水都大阪2009実行委員会発足	
平成19年6月18日	第1回水都大阪2009実行委員会・開催後記者会見	会長・副会長選任、H19年度事業計画及び収支予算。
平成19年7月11日	第1回水都大阪2009企画調整委員会	副会長選任。
平成19年7月27日	第3回水都大阪2009実行委員会(書面)	委員選任、アート・アドバイザー・コミッティ設置。
平成19年8月24日	ホームページ開設/シンボルマーク・ロゴマーク決定	実行委員・企画調整委員の追加(国の機関等)。
平成19年11月28日	第2回水都大阪2009企画調整委員会	
平成19年12月28日	第4回水都大阪2009実行委員会(書面)	会長選任、開催期間決定等。
平成20年2月28日	第3回水都大阪2009企画調整委員会	
平成20年3月12日	第5回水都大阪2009実行委員会(書面)	委員の変更。
平成20年4月16日	第6回水都大阪2009実行委員会・開催後記者会見	事務局提出の実施計画案が不承認、次回に持ち越し。大阪府の修正案が出た段階で調整。
平成20年5月20日	第7回水都大阪2009実行委員会(書面)	監事の選考、委員の変更。
平成20年6月4日	第4回水都大阪2009企画調整委員会	
平成20年6月10日	第8回水都大阪2009実行委員会・開催後記者会見	実施計画修正案可決。
平成20年7月9日・10日	企業協賛説明会(関西経済連合会大会議室)	計4回実施(参加企業99社)。
平成20年7月16日	第9回水都大阪2009実行委員会(書面)	委員の変更。
平成20年7月25日	第10回水都大阪2009実行委員会(書面)	委員の変更。
平成20年7月31日	第5回水都大阪2009企画調整委員会	推進体制について等。
平成20年10月1日~11月7日	北浜テラス試験実施(3店舗)	
平成20年10月12日	一年前イベント実施(於:湊町リバープレイス)	
平成20年11月27日	第6回水都大阪2009企画調整委員会	一年前イベントのパンフレット
平成20年12月13日	錦橋点灯式	
平成21年2月5日	ポスター第1弾発表	
平成21年2月27日・28日	東京プロモーション	
平成21年3月27日	第7回水都大阪2009企画調整委員会	メディア訪問、「ららぽーと」TOKYO-BAYでのPRイベント
平成21年3月28日	水都大阪2009シンポライト開幕事業実施	
平成21年4月3日	第11回水都大阪2009実行委員会	実施計画詳細決定。開催後、記者会見。
平成21年4月25日	クルーズ&ウォークOSAKA旅∞キックオフプログラム実施	
平成21年5月1日~7月25日	北浜テラス試験実施(3店舗)	
平成21年5月14日	100日前イベント(於:大阪市役所ホール)	
平成21年5月27日	第12回水都大阪2009実行委員会(書面)	委員の変更。
平成21年6月11日	第8回水都大阪2009企画調整委員会	「ららぽーと」TOKYO-BAYでのPRイベント
平成21年6月22日	第13回水都大阪2009実行委員会(書面)	
平成21年7月16日	東京プロモーション	
平成21年7月24日	第14回水都大阪2009実行委員会(書面)	東京ビッグサイト、都市センターホール、小田急百貨店、「ららぽーと」TOKYO-BAY等平成20年度決算報告等。
平成21年8月13日	第9回水都大阪2009企画調整委員会(書面)	
平成21年8月20日	第15回水都大阪2009実行委員会(書面)	委員の変更。
平成21年8月21日	前夜祭	
平成21年8月22日	オープニングセレモニー	
平成21年10月7日~9日	台風18号による中断	
平成21年10月12日	フィナーレ	

実行委員会・企画調整委員会等名簿

●実行委員会名簿(平成19年5月7日実行組織設立時~「水都大阪2009」開催時)

※委員就任日は実行委員会承認日

役員名	役職名	氏名	期間
会 長	大阪市長	關 淳 一	平成19年5月7日~平成19年12月27日
副 会 長	社団法人関西経済連合会 会長	平 松 邦 夫	平成19年12月28日~
		秋 山 喜 久	平成19年5月7日~平成19年6月17日
委 員 (順不同)	経済産業省近畿経済産業局長	下 妻 博	平成19年6月18日~
		久 貝 卓	平成19年7月27日~平成20年7月24日
		平 工 奉 文	平成20年7月25日~平成21年7月23日
	国土交通省近畿地方整備局長	深 野 弘 行	平成21年7月24日~
		布 村 明 彦	平成19年7月27日~平成20年7月16日
		木 下 誠 也	平成20年7月17日~平成21年7月23日
	国土交通省近畿運輸局長	上 総 周 平	平成21年7月24日~
		各 務 正 人	平成19年7月27日~平成21年7月23日
		原 喜 信	平成21年7月24日~
	大阪府知事	太 田 房 江	平成19年5月7日~平成20年3月11日
		橋 下 徹	平成20年3月12日~
	大阪商工会議所 会頭	社団法人関西経済同友会 代表幹事	野 村 明 雄
森 下 俊 三			平成19年5月7日~平成19年6月17日
総合アドバイザー	建築家・東京大学名誉教授	小 嶋 淳 司	平成19年6月18日~平成20年5月19日
		齊 藤 紀 彦	平成20年5月20日~平成21年5月26日
		中 野 健 二 郎	平成21年5月27日~
		熊 谷 信 昭	
		津 田 和 明	
		安 藤 忠 雄	

●企画調整委員会名簿(平成19年7月11日組織設立時~「水都大阪2009」開催時)

役員名	役職名	氏名	期間
委 員 長	財団法人大阪21世紀協会 理事長	堀 井 良 殷	
委 員 (順不同)	経済産業省近畿経済産業局総務企画部長	山 田 宗 範	平成19年8月1日~平成20年7月10日
		若 井 英 二	平成20年7月11日~
		深 澤 淳 志	平成19年8月1日~平成20年7月3日
	国土交通省近畿地方整備局企画部長	塚 田 幸 広	平成20年7月4日~
		吉 田 晶 子	平成19年8月1日~平成21年3月15日
	国土交通省近畿運輸局企画観光部長	平 嶋 隆 司	平成21年3月16日~
		奥 田 真 弥	
	社団法人 関西経済連合会 専務理事	灘 本 正 博	
	大阪商工会議所 専務理事	齊 藤 行 巨	
	社団法人 関西経済同友会 常任幹事・事務局長	小 西 池 透	平成19年7月11日~平成20年6月26日
	大阪ガス株式会社 秘書部経営調査室長	岩 永 知 大	平成20年6月27日~
	株式会社 大林組 専務執行役員	長 谷 川 博	
関西電力株式会社 地域共生・広報室 都市再生プロジェクトチーム 部長	北 野 剛 人		
近畿日本鉄道株式会社 秘書広報部長	林 信		
京阪電気鉄道株式会社 執行役員	木 村 靖 夫		
サントリー株式会社 大阪秘書室長	山 本 卓 彦	平成19年7月11日~平成21年3月31日	
サントリーホールディングス株式会社 大阪秘書室長	長 岡 伸 幸	平成21年4月1日~	
住友金属工業株式会社 総務部担当部長	榊 原 道 治	平成19年8月1日~平成21年3月31日	
総務部次長	喜 多 村 憲 一	平成21年4月1日~	
ダイキン工業株式会社 経営企画室調査担当部長	宮 住 光 太		
株式会社 竹中工務店 常務取締役	難 波 正 人		
西日本電信電話株式会社 総務部企画担当部長	富 森 浩 治	平成19年7月11日~平成21年6月30日	
パナソニック株式会社 関西渉外室長	西 村 昌	平成21年7月1日~	
	深 江 広 士		
大阪府 生活文化部 文化・スポーツ振興室長	矢 富 直	平成19年7月11日~平成21年3月31日	
府民文化部 都市魅力創造局 副理事	神 田 経 治	平成21年4月1日~	
大阪市 ゆとりとみどり振興局理事	西 澤 由 美 子		
財団法人 大阪観光コンベンション協会 理事長	寺 川 治	平成19年7月11日~平成21年3月31日	
常務理事兼経営企画部長	野 津 弘 昭	平成21年4月1日~	
大阪城・上町台地エリア企画推進委員会 委員長(大阪市ゆとりとみどり振興局文化部長)	櫻 川 義 郎	平成19年7月11日~平成21年3月31日	
水辺のまちづくり企画推進委員会 委員長(京阪電気鉄道株式会社 常務執行役員)	梶 本 武 史	平成21年4月1日~	
	(同 執行役員)	岸 元 士	平成19年7月11日~平成20年7月29日
光のまちづくり企画推進委員会 委員長代理(阪神高速道路株式会社 環境・景観室長)	向 井 寛 行	平成20年7月30日~	
	志 野 幸 功	平成19年11月29日~平成20年7月29日	
	山 口 良 弘	平成20年7月30日~	

●プロデューサー

北川フラム 橋爪紳也

●マネージャー

岡 智 恵 子 永田宏和 森本 啓

●事務局長

室 井 明



2009年(シンボルイヤー) 関連事業

淀川は大阪の生命線である一方、過去幾度となく洪水を繰り返し、水害対策として改良工事が行われてきた。2009年は、明治42年(1909年)に毛馬で挙行された淀川改良工事竣工式からちょうど100年にあたる。また、同年は水都大阪を象徴する中之島周辺のインフラ整備が終わり、景観も大きく変わった。

こうしたことから、2009年を「水の都大阪」発展のシンボルイヤーと位置づけ、整備されたスペースを活用しながら、既存事業との連携や市民・企業・団体の参加により、1年を通じて、広がりのある様々なイベントが開催された。

3月	<ul style="list-style-type: none"> ●2009大阪・上町春めぐり(3月20日～5月6日) 主催:四季のイベント創出実行委員会 ●重要文化財「泉布観」一般公開(3月27日～29日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局 ●水都大阪2009春の舟運まつり(3月28日～4月26日) 主催:水都大阪2009実行委員会・水都ルネサンス大阪実行委員会・(財)大阪21世紀協会・大阪シテイクルーズ推進協議会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ●市長杯第62回大阪シテレガッタ(4月4日・5日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局・大阪市体育厚生協会 ●造幣局桜の通り抜け(4月15日～21日) 主催:独立行政法人造幣局 ●大阪あそび'09 春(4月19日～5月31日) 主催:大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会 ●第30回大阪市こどもカーニバル2009(4月26日) 主催:大阪市こども青少年局・大阪市子ども会育成連合協議会 ●大阪城野外芸術コンサート2009星空コンサート(4月26日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局・大阪フィルハーモニー協会・朝日放送 ●昭和12年のモダン都市へ～観光映画「大大阪観光」の世界(4月27日～7月11日) 主催:大阪大学総合学術博物館・大阪歴史博物館 ●'09食博覧会・大阪(4月30日～5月10日) 主催:食博覧会実行委員会・(財)大阪21世紀協会・(社)大阪外食産業協会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●御堂筋オープンフェスタ2009(5月10日) 主催:御堂筋にぎわい空間づくり実行委員会 ●「なにわ育ちのおいしい水 ほんまや」水都大阪2009バージョン販売(5月10日～10月12日) 主催:大阪市水道局 ●FIVBビーチバレーワールドツアー2009(5月20日～24日) 主催:国際バレーボール連盟 ●安藤忠雄建築展2009 対決。水の都大阪vsベニス(5月23日～7月12日) 主催:サントリーミュージアム・朝日新聞社・NHK大阪放送局・安藤忠雄建築展実行委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●水都大阪2009 関連企画特集展示「水都のハート:中之島を描く」(6月4日～7月5日) 主催:大阪市立近代美術館建設準備室・(財)大阪市教育振興公社 ●水都大阪を歩こう!「天神祭と大川」(6月27日～7月26日) 主催:大阪くらしの今昔館
7月	<ul style="list-style-type: none"> ●天の川七夕祭り2009(7月7日) 主催:交野市星のまち観光協会 ●「ミュージアム連続講座 水から見える世界」(7月10日～8月7日、8月21日～9月11日、9月25日～10月16日【毎金曜日】) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局 ●第9回道頓堀川船渡御巡幸(7月12日) 主催:難波八阪神社・難波八阪神社道頓堀川船渡御行事保存会 ●中之島水上ビアガーデン(7月17日～10月12日) 主催:水都ルネサンス大阪実行委員会 ●「橋洗いブラッシュアップ大作戦」(7月20日・8月18日・20日) 主催:大阪市中央区役所 ●天神祭(7月24日・25日) 主催:大阪天満宮 ●大阪総おどり2009(7月26日) 主催:サンケイスポーツ
8月	<ul style="list-style-type: none"> ●住吉祭(8月1日) 主催:住吉大社 ●木津川ウォール・ペインティング2009(8月1日～31日) 主催:大阪府府民文化部 ●水都大阪2009 開催記念事業企画展「水都大阪再発見」(8月1日～11月23日) 主催:大阪市立東洋陶磁美術館 ●第21回なにわ淀川花火大会(8月8日) 主催:第21回なにわ淀川花火大会運営委員会 ●大阪市立クラフトパーク開設10周年記念「展示&工房の実演」(8月10日～28日) 主催:大阪市立クラフトパーク ●中之島のタベ'09～納涼祭～(8月15日・16日) 主催:夢番地 ●水都大阪2009 関連事業「水都の景観」(8月19日～10月13日) 主催:大阪歴史博物館 ●大阪城 城灯りの景(8月21日・22日) 主催:大阪城・上町台地エリア魅力創出実行委員会 ●ART OSAKA(8月21日(プレ)・22日・23日) 主催:ART OSAKA実行委員会 ●水都大阪2009 関連事業・古写真展「水都大阪の堀めぐり・川めぐり」(8月22日～9月30日) 主催:大阪城天守閣 ●ラバー・ダック(8月22日～9月27日) 主催:千島土地株式会社 ●バラ園レストラン「ローズカフェ」(8月22日～10月12日) 主催:辻学園調理・製菓専門学校 ●八軒家浜カーヌーベス(8月22日～10月12日) 主催:八軒家浜カーヌーベス実行委員会 ●中之島おもてなしカフェ(8月22日～10月12日) 主催:四季のイベント創出実行委員会 ●泉布観の夜間ライトアップ(8月22日～10月12日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局 ●映画「大大阪観光」の上映及び「水都めぐり」のパネル展示(8月22日～10月12日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局 ●南天満公園ライトアップ(8月22日～10月12日) 主催:大阪府都市整備部 ●大坂夏の陣1615～城が燃えてもオレたちは! (8月23日) 主催:「大坂夏の陣1615～城が燃えてもオレたちは!」制作実行委員会



木津川ウォール・ペインティング



大阪城・城灯りの景



ラバー・ダック



バラ園レストラン「ローズカフェ」



南天満公園ライトアップ

水都大阪2009 8・22～10・12

8月	<ul style="list-style-type: none"> ●ふえすた・なかのしま・823 水都大阪打ち水大作戦2009(8月23日) 主催:(財)大阪21世紀協会・毎日新聞社・大阪打ち水大作戦本部 ●フェアウッド・ムービー 木の来た道(8月24日) 主催:財団法人泉佐野市公園緑化協会 ●高野弘フォトコンサート in 水都大阪2009(8月28日、9月11日・25日、10月2日) 主催:有限会社アクアイメージ・株式会社イズミヤ総研 ●船着場ネットワーククルーズ(8月29日、9月13日・26日) 主催:伴ピーアール株式会社 ●大阪クラシック(8月30日～9月5日) 主催:大阪クラシック実行委員会 ●山本能楽会による「能のワークショップ」(8月30日) 主催:山本能楽会 ●水都大阪ラストサマー「HAWAIIAN HULA NIGHT in 中之島」(8月31日) 主催:水都大阪ラストサマーin中之島 ハワイアンフラナイト実行委員会 	  <p>「能」 写真:かつらかづみ ハワイアンフラナイト</p>
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●水都大阪2009 開催記念事業 サイエンスショー「水の科学、大実験!」(9月1日～11月29日) 主催:大阪市立科学館 ●第10回こいや祭り(9月5日・6日) 主催:こいや祭り協議会・こいや祭り実行委員会 ●Nanosima・Fado・Noite(9月9日) 主催:大阪日本ポルトガル協会 ●淀川改良工事百周年記念シンポジウム(9月12日) 主催:国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所 ●だんじり囃子演奏(9月13日) 主催:大阪地車連絡協議会 ●水都大阪2009 秋の舟運まつり 平野治朗「GINGA」～水都漂流～(9月12日・10月10日) 主催:水都ルネサンス大阪実行委員会 ●盆踊り(9月14日～16日) 主催:大阪観光コンベンション協会 ●水都大阪2009 開催記念 特集展示「水の風景」(9月15日～10月25日) 主催:大阪市立美術館 ●「クリエイティブストリーム OSAKA」(9月15日～11月27日) 主催:大阪市経済局 ●石井竜也「水都大阪2009」スペシャルコンサート(9月17日・18日) 主催:読売新聞社 ●ストリートミュージシャンLIVE! KISEKI(9月17日) 主催:OSAKAエンタテインメントフェスティバル実行委員会 ●バンクスイディエーション'09(9月18日～23日) 主催:中之島バンクス ●咲くやこの花コレクションVol.3「パラモデルといっしょにブラレールで遊ぼう」(9月19日～23日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局 ●「おかえり!カーネル」展示(9月19日～23日) 主宰:日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 ●ビット・フォールー滝(9月19日～23日) 主催:ドイツ文化センター ●ペロタクシー(9月19日～23日) 主催:大和ハウス工業株式会社 ●ミュージアムウィークス大阪2009(9月19日～10月8日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局 ●泉布観特別公開「光と音で彩る文明開化」(9月25日～27日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局・四季のイベント創出実行委員会 ●ストリートミュージシャンLIVE!野田彰吾(9月26日) 主催:OSAKAエンタテインメントフェスティバル実行委員会 ●中之島BigBandフェスティバルin水都大阪2009(9月27日) 主催:中之島BigBandフェスティバルin水都大阪2009運営委員会 ●JAZZ NIGHT(9月28日・29日) 主催:ライブハウス ブラウニー、アプローズ 	   <p>こいや祭り 「おかえり!カーネル」展示 ペロタクシー</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ●ストリートミュージシャンLIVE! KISEKI(10月1日) 主催:OSAKAエンタテインメントフェスティバル実行委員会 ●中之島国際音楽祭2009(10月2日～4日) 主催:中之島国際音楽祭実行委員会 ●ACCJ関西チャリティークラーク&フェスティバル(10月3日) 主催:在日米商工会議所 ●ベイ&リバーサイドパーティ2009 OSAKA(10月3日・4日) 主催:川と海をつなぐ舟運にぎわいまちづくり事業実行委員会 ●NAMURA ART MEETING(10月3日・4日) 主催:NAMURA ART MEETING 実行委員会 ●MUSIC SHOWER(10月4日) 主催:スピカレコード ●Dripping of Shower(10月5日) 主催:スピカレコード ●おいでやすオーク(10月9日) 主催:大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会・(社)日本ウオーキング協会 ●水と歴史の都 大阪ウォーク(10月10日・11日) 主催:大阪市ゆとりとみどり振興局・(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会・(社)日本ウオーキング協会 ●OSAKAストリートミュージシャンフェスティバル2009(10月10日・11日) 主催:OSAKAエンタテインメントフェスティバル実行委員会 ●水都おおさか森林の市2009(10月10日・11日) 主催:「水都おおさか森林の市2009」実行委員会 ●御堂筋kappo2009(10月11日) 主催:御堂筋kappo2009実行委員会 ●「みなみどりん☆リズムカーニバル」(10月12日) 主催:キッズプラザ大阪(大阪市教育振興公社) ●OSAKA水上音楽パレード2009(10月12日) 主催:NPO法人大阪水上安全協会・(財)大阪21世紀協会 ●OSAKA大道芸フェスティバル2009(10月17日・18日) 主催:OSAKAエンタテインメントフェスティバル実行委員会 ●大阪あそび'09秋(10月17日～11月30日) 主催:大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会 ●エコアートフェスタ大阪2009(10月31日～11月8日) 主催:エコアートフェスタ大阪実行委員会 	  <p>水と歴史の都大阪ウォーク OSAKA水上音楽パレード2009</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> ●四天王寺ワッソ(11月1日) 主催:四天王寺ワッソ実行委員会 ●第13回大阪・淀川市民マラソン(11月1日) 主催:大阪・淀川市民マラソン実行委員会 	 <p>光のルネサンス</p>
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●OSAKA光のルネサンス2009(12月1日～25日) 主催:OSAKA光のルネサンス実行委員会 ●御堂筋イルミネーション(12月12日～2010年1月31日) 主催:大阪市都市魅力創造局 ●八軒家浜オープニングプロジェクト～帰ってきたラバー・ダック&リバーサイドカフェ～(12月12日～25日) 主催:(財)大阪府都市整備推進センター・大阪シテイクルーズ推進協議会 共催:大阪府都市整備部・同府民文化部 	 <p>光のルネサンス</p>

広報・PR活動

水都大阪2009の広報・PR活動は、時期と発信に対する反響を鑑みながら大きく3つに分けて行った。

◎第1フェーズ（～2009年3月）

認知度向上

各コンテンツがまだ具体的に固まっていない時期での広報活動であり、名前と開催日、開催場所以外に告知できる情報がほとんどなかったため、広報展開には苦慮した。

マスコットキャラクターの制作について検討したが、「水都大阪2009」がアートと市民参加を中心としたまちづくりイベントであることを考えると、マスコットキャラクターと各アート作品等とのイメージの齟齬をきたす恐れもあり、最終的にはマスコットキャラクターは作らないこととし、水の回廊をイメージしたシンボルマークとロゴのみを活用することとした。そのため、集客イベントでのPR活動もインパクトがなく、十分な認知を得られない状態が続いたので、ポスター案検討の際にはインパクトの強いものを制作し、認知度を上げることが命題となった。その結果、橋下大阪府知事と平松大阪市長の顔が川から浮かび上がっているポスター案が知事、市長の快諾もあって、決定され、すぐに撮影の運びとなった。

2009年2月5日に市長定例記者会見でポスターを発表したとたん、大変な反響を呼び、新聞、テレビ、WEBにも大きく取り上げられた結果、一挙に認知度を上げることができた。また、以後の広報ツールとして、同じデザインを使ったちらしや壁紙、かきわり(ポスターの顔の部分くりぬいた写真撮影用パネル)などを制作した。食博などの集客イベントではかきわりは大人気で、大人も子どももポスターと同じポーズで写真を撮っていた。ポスターも他府県を含め、コンビニやホテルなどから掲出要望があり、認知度向上に大いに役立った。

この時期のプロモーション先として、旅行代理店等が作成する旅行関連雑誌にターゲットをしぼり、東京プロモーションの際に各社を訪問して、掲載依頼を行った。

◎第2フェーズ（2009年4月～6月）

具体的内容の情報発信による期待感の醸成

プログラムについてまだコンテンツが固まっていないものが多かったが、先行実施した北浜テラス（大阪川床）やクルーズ&ウォークなどを中心に情報発信し、少しでも「水都大阪2009」の具体的なイメージを持ってもらえるように努めた。しかし、内容が多岐にわたるうえ、具体的な情報を十分出せなかったため、『何をやるのかよくわからない』という声がよく聞かれた。幸いにも大阪に他に大きなイベントがないこともあり、コミュニティ情報誌各誌に多く取り上げられ、中味が曖昧ではありながらも、露出が増えていった。



ジャイアント・トラヤン ラッキードラゴン ラバー・ダック



シンボルマークとロゴ



のぼり



東京プロモーション



北浜テラスちらし



告知ポスター



市民企画募集ポスター



計画実施パネル



壁紙



ちらし



パンフレット

ガイドブック



告知リーフレット



雑誌

◎第3フェーズ（2009年7月～10月）

集客のための情報発信・ブランドイメージ強化

コンテンツの内容やスケジュールが固まる時期とパンフレットやガイドブックを作成する時期がほぼ同時期だったため、スケジュールや内容の変更も多く、来場者にわかりやすい事前情報を提供することが難しかった。言葉で表現することには限界があり、開催直前になって相変わらず『中味がわからない』と言われ続けていた。

8月21日夜に前夜祭とプレスプレビューを実施した結果、8月21日～22日にかけて、テレビのニュースとして14番組で放映され、テレビの映像を通してようやく「水都大阪2009」のイメージが伝わり始めた。開催以後、テレビやラジオ、新聞、アート関係の雑誌も含めて、様々なメディアに取り上げられ、また、来場いただいた方々の口コミもあったのか、土日祝日を中心にだんだん来場者が増えてきた。特に、Yahooのトップページを飾ったヤノベケンジ氏の「ジャイアント・トラヤン」や「ラッキードラゴン」は集客コンテンツとなった。また、連携事業の一つ、八軒家浜に浮かぶ巨大アヒル「ラバー・ダック」もWEBや口コミを中心に評判となり、多くの人が携帯で写真を撮って、友人に送ることで人気が広がり、「水都大阪2009」の来場者増につながった。

また、実行委員会構成団体である府・市・経済界等の協力もあり、各々のPRツールで告知協力をいただいたほか、地下鉄や私鉄の協力のもと、ポスターの掲出のみならず、各駅構内で、知事・市長のメッセージを連日流してもらったことも、集客につながった。

結果的に、当初目標の100万人を大きく上回る延べ190万人の来場者となった。

■メディア露出一覧

		平成19年度	平成20年度	平成21年度
テレビ・ラジオ (順不同)	NHK、NHKBS、MBS、ABC、KTV、YTV、TVO、Kcat eoテレビ、JCOM、NHKラジオ、MBSラジオ、FMCOLO、FM OSAKA、FM802、Japan FM Network、kiss-FM KOBE	5	11	66
新聞 (順不同)	朝日新聞、産経新聞、毎日新聞、読売新聞、日本経済新聞、大阪日日新聞、京都新聞、神戸新聞、奈良新聞、山陽新聞、建設新聞、日刊ケイサイ、日刊建設新聞、日刊建設工業新聞、日刊工業新聞、サンケイエクスプレス、サンケイスポーツ、スポーツ報知、スポーツニッポン、日刊スポーツ、夕刊フジ、ジャパンタイムズ、市政新聞、週間観光経済新聞、河北新報他	30	88	233
雑誌 (順不同)	秋あ、イグザミナ、イベントレポート、大阪人、大阪春秋、OZ magazine、関西1週間、関西ファミリーウォーカー、関西ウォーカー、SAWY、じゃらん、旅こよみ、たびちよこ大阪、日経おとなのOFF、日経トレンド、NUMERO東京、ハナコウエスト、びあ関西版、美術手帳、フェリス、BRUTUS、まっふる大阪、Meets、ランドスケープデザイン、旅行読売、レタスクラブ、るるぶ他	1	26	97
その他 (順不同)	エースJTB、大阪ぐるりんバス、大阪市政だより、大阪府政だより、大阪ファンクラブ、OSAKA文化力、おおさか街あそび、OPPI、京橋経済新聞、経済人、月間島民、KPRESS、シティリビング、C.WORK、スルッとKANSAI遊びマップ、スポニチアクセス、全国旅そうだん、大商ニュース、電車&ウォーク、徳島県政だより、都道府県展望、なちゆる、ホットペッパー、わがまち大阪他	19	50	75
		55	175	471

※実行委員会設立時から2010年1月20日までの間で事務局が把握しているもののみ。

■ホームページ

2007年8月24日に開設し、翌年7月に実施計画が確定したのを受けて、リニューアルをし、各プログラムの具体的な内容が固まった段階で、再度2009年4月にリニューアルし、開幕直前の8月には毎週のプログラムのみどころを紹介するなどの変更を行った。また、あわせてモバイルでの情報提供を開始した。

「水都大阪2009」の継承・継続について

「水都大阪2009」は、大阪府、大阪市、経済界等からなる「花と緑・光と水懇話会」と「水の都大阪再生協議会」の2つの組織から、ほぼ同時にその実施が提案されたのを受け、平成19年(2007年)5月に実行委員会が設置された。「ハードとソフトを活かしたまちづくり」や「都市間競争を勝ち抜くための都市格の向上」が重要ということが関係者の共通した認識で、停滞する大阪を元気にするためには「水都」をキーワードに大阪に新しいムーブメントを興すことが必要であること、お笑い、たこ焼き、タイガースではない新しい「大阪のブランド」が必要であることが、関係者間での共通した思いであり、また大阪の状況に対する危機感でもあった。「水都大阪2009」の基本コンセプトは、①水都大阪の魅力を創出し、世界に発信、②市民が主役となる、元気で美しい大阪づくり、③開催効果が継続し、都市資産や仕組みが集積されていくまちづくり、の3点であり、その基本コンセプトを実現すべく、新しい水都のブランディング、水辺のにぎわいと活性化という切り口から各種プログラムを計画した。「水都大阪2009」は、8月22日から10月12日の52日間に、中之島公園、八軒家浜、水の回廊を中心として実施されたが、当初の目途を上回る多くの来場者を得ることができ、また、企画段階から実施段階に至るまで、制作サポーターをはじめ多くの市民、NPO、地域の方々に参加していただいた。

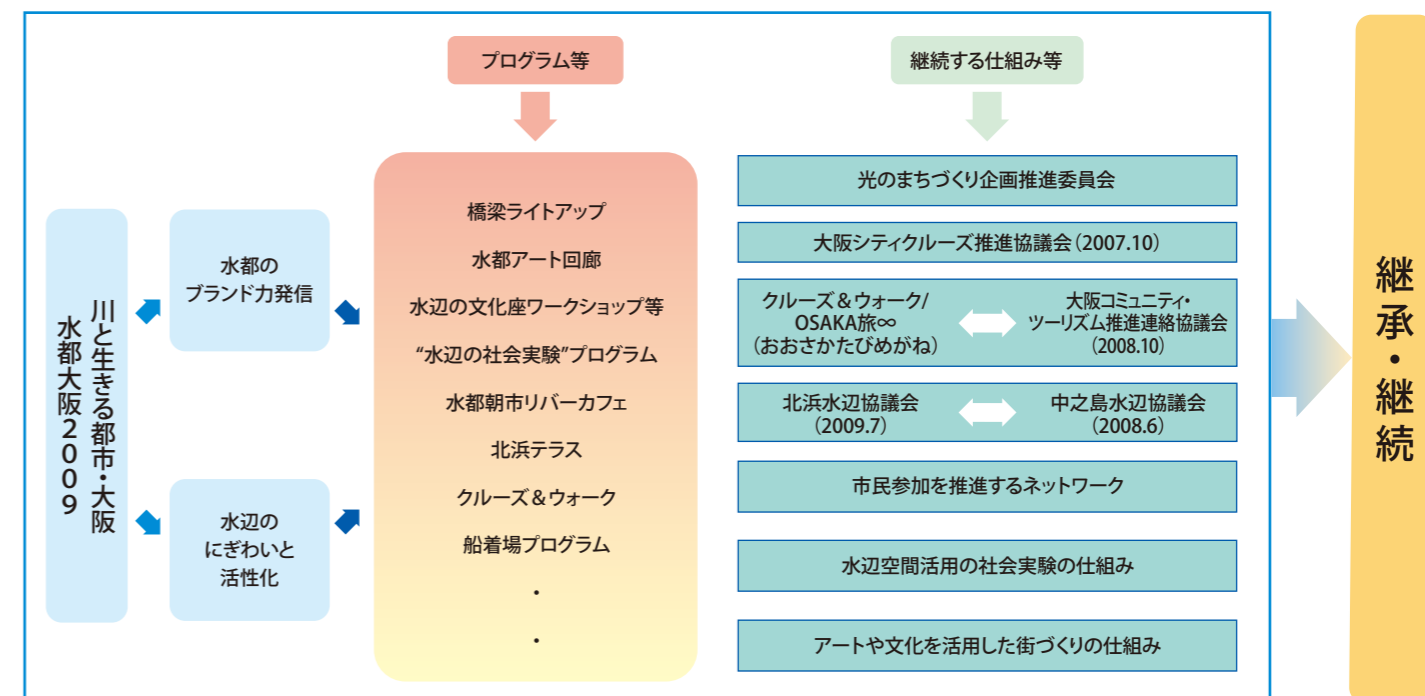
「水都大阪2009」の活動は、これで終わりではなく始まりである。当初のねらいであった、「一過性のイベントでなく継続するムーブメント」、「市民の力を結集した継続的なまちづくり」という視点でみるならば、キーワードに掲げているように「連携・継承・継続」がこれから正に重要となる。「水都大阪2009」の会期中、訪れた人から、水辺空間の楽しさを実感した、大阪の魅力を再発見した、大阪の評価が変わった、このムーブメントは是非続けてほしいという声が多く寄せられており、関係者としては「継承・継続」の重要性を肌で感じている。

「継承・継続」については、新年度から上記の2つの委員会が一体化し新たな組織体制で再出発する予定であり、大阪府、大阪市、経済界が一体となって水都大阪を推進することの確認、2010年以降の道しるべの共有が検討されている。また、組織体制だけでなく、その推進においては、市民・NPO等の意見を集め、協働してプログラムを実施するプラットフォームづくりが非常に重要である。単なる一過性のイベントでなく、まちづくりのムーブメントを持続するための大阪としてのスキームづくりが問われることになる。「水都大阪2009」では、多くの市民・NPO等が趣旨に賛同し、その力が結集できたことも成果であり、同時に大阪には実力のあるすぐれたNPOや意欲のある市民が多く存在することが証明された。現下の財政状況、経済環境に鑑みれば、水都大阪再生は、既存都市資産を再発見し再発信していく知恵と「民の力」が重要であり、市民・NPOから企業・起業家に至る幅広い協働は今後の大きな課題である。

「水都大阪2009」では、準備段階も含めるとその実施の間に、「大阪シティクルーズ推進協議会」、「大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会」といった組織が新たに結成され、北浜テラス、クルーズ&ウォーク、新規の舟運コースなど、今後とも継続される事業もいくつか誕生した。また、橋梁ライトアップなどの光のまちづくりも「水都大阪2009」を契機に新たなステップへの展開が始まっている。しかし、一方、舟運事業の年間を通しての活性化、制作サポーターを継承する仕組み、アートの力の活用方法など、これからの検討に委ねられている部分もあり、「水都大阪2009」で誕生した「芽」を絶やさぬよう、府・市・経済界それに市民・NPO等が加わり、水都大阪を推進する大阪モデル実現に向けた活動を2010年から始めることが必要である。

アンケートでは、「水都大阪2009」のようなイベントの継続的な開催を希望する声があるが、他方、まちや景観や河川がきれいになる、川を中心としたハードやソフトが整備されるなど、水都としてのまちの整備やあり方にも関心が高い。イベントとしての盛り上がりも勿論大事だが、イベントそのものが目的でなく、市民とともに水都再生のムーブメントを創り、まちづくりを進め、内外に向けた水都大阪のブランドを発信することが最終的なミッションであり、そのためのアフター2009のビジョン、プログラムづくりをすることが、継承・継続に向けた大きな課題である。

「水都大阪2009」を契機として、継承・継続の活動を推進するためには、府、市、経済界など、オール大阪での未来像の構築、及び「水都大阪2009」で芽ばえた仕組みやネットワークを育てていくスキームづくりが重要である。



【参考】

平成21年3月27日企画調整委員会資料 実施計画(詳細版)に基づく

プログラム等	「水都大阪2009」実施にあたっての考え方	課題
橋梁ライトアップ	○水辺の夜の景観とにぎわいを創出するため、錦橋・天神橋・難波橋の3橋をライトアップ。 ○橋の歴史や形に合わせた「光のアート」として、「水都大阪2009」の開催後も残る常設の設備として設置。	●「水都大阪2009」の開催主旨を引き継ぎ、水の回廊等でのライトアップの拡大をめざした府・市・経済界等の一体化した取り組み ●ライトアップの推進における、府・市それぞれの「ワンストップ調整機能」の整備と強化
クルーズ&ウォーク OSAKA旅∞	○プロポーザルにより、「水都大阪2009」以降も事業を継続するというコンセプトを有した運営受託者を選定。	●大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会や公的機関との連携・支援体制構築(プロモーション支援)
北浜テラス (大阪川床)	○2008年は約1ヶ月間期間限定の試行という扱いで実施。 ○2009年以降は、規制緩和のスキームを活用した継続設置をめざす。	●民間事業者(ビルオーナーや店舗等)が事業として継続できる仕組みづくり ●河川敷地利用の規制緩和と周辺環境整備
水都朝市 リバーカフェ	○「大阪蔵屋敷ネットワーク」で培われた府下及び全国の商店街ネットワークとも連携し、継続実施をめざす。 「大阪蔵屋敷ネットワーク」:北前船ルート地域活性化ビジネスモデル事業(20年度実施)	●河川敷地利用の規制緩和 ●市民活動のネットワーク化と市民活動への支援の仕組み
船着場プログラム (地域協同企画)	○船着場周辺の地元地域等が、主体的かつ日常的に船着場等河川空間を活用する企画の立案・実施をすることで、河川空間活用に対する機運を醸成するとともに、「水都活性化の担い手」としての人材育成、ノウハウの蓄積を図る。	●水辺空間を活性化する船着場づくりに向け、府・市・地元が一体となった取り組み ●河川敷地利用の規制緩和 ●船着場の目的外使用に関するルールづくり
水辺の社会実験 (市民企画プログラム)	○水辺空間における様々な社会実験を展開し、継続的な水辺の利活用を促進。 ○「水辺のにぎわいと活性化」をテーマに、市民活動のネットワーク化を促進。	●市民の活動のネットワーク化と市民活動への支援の仕組み
水辺の文化座	○アートの力を活かした都市づくりをめざす。 ○全国から選りすぐった多種多様な分野のワークショップを提供することで、多くの市民に、従来の「受動型(鑑賞型)アート」ではなく、「能動型(参加型)アート」という新しい体験の場を提供できる。集めたワークショップをデータベース化することで、高質な教育ツール、コミュニケーションツールとして教育現場等での活用が可能となる。 ○当プログラム及び下記「アート回廊」における作品制作やワークショップ運営に関わる「アート・サポーター」を募集。彼らの情報交流ネットワークを形成するとともに、アート活動を支え、大阪が文化創造都市へと成熟していくための、人材バンクをつくりだす。	●専門家、市民、行政、企業等が協働・連携し、都市づくりをするために実質的に活動できる組織づくり。また、それを可能にするための各種規制緩和や行政連携 ●学校等、教育機関におけるワークショップ活用の推進 ●地域のNPO等が行っている文化創造都市への活動に対する援助 ●アートや文化を活用した都市戦略の明確化と合意形成
水都アート回廊	○「大阪の都市空間×アート」によって、見過ごされている大阪独自の都市資産を見直し、その価値を改めて認識する機会を提供することで、水都大阪のブランディングに寄与する。	●都市づくりに対するアートの寄与に対する評価と文化創造都市へ向けた積極的取り組みの継続 ●公共工作物へのアート導入・設置の仕組みづくり(規制緩和も含む) ●歴史的建築物等に対する公的補助(近代建築所有者への補助等)

「水都大阪2009」と市民参加

「水都大阪2009」の基本計画を策定するにあたり、大阪の持つ「水の都」という高いポテンシャル・魅力を最大限に活用し、かつ、大阪活性化のムーブメントが継続するようなものとするのが「花と緑・光と水懇話会」のメンバーの共通の認識であった。

「水都大阪2009」の成果を継承・継続していくには、成果の受け取り手である市民が「水都大阪2009」の取り組みの担い手であることが最もふさわしいとして、できるだけ多くの市民が自分の経験やライフスタイルに応じて参加できるような仕組みづくりをめざした。

ワークショップや灯りプログラムなどの会場での参加だけでなく、市民の方に企画・運営もしていただくプログラムとして、「水辺の社会実験」プログラム「水辺の文化座」「船着場プログラム/地域協同企画」や、自身がステキと感じる大阪の場所・モノなどを写真と短い文章で表現していただく「大阪ステキ発見」など、数多く用意した。開催前、延べ4万人の市民参加数を見込んでいたが、結果的には延べ7万9千人の参加を得ることができた。

なお、「水辺の社会実験」プログラムについては、提案受付までの間に応募を検討している方々の情報交換会(任意参加)を2回実施した。この会は応募を考えている方々に意見交換しあう場を提供し、他の企画案や意見を聞くことによってご自身の企画をさらにブラッシュアップしたり、ネットワークを広げていただくことを目的としていた。このアイデアは、大阪のまちづくりや文化活動等で活躍されている方々から公募に関して寄せられたご意見を取り入れたものである。

◎大阪ステキ発見(参照32～33P)

「水都大阪2009」の市民参加プログラムの一つで、大阪の魅力を再発見し発信するための写真と言葉のコンテスト。応募者が「ステキ」と感じる様々な表情の大阪の魅力を写真に撮って、言葉とともに応募という形で提案してもらった。2008年10月10日から2009年5月31日まで作品を応募し、合計841点の作品が集まった。応募作のなかから102点の「ステキ作品」と大阪府知事賞(1作品)、大阪市長賞(1作品)、審査員賞(4作品)の特別賞が選ばれた。全応募作品を会期中に八軒家浜会場「川の駅はちけんや」で展示し、大阪の魅力を発信した。

また特別賞受賞者は、市民企画プログラム「水辺の社会実験」のオープニングにあわせ、9月19日(土)に水都大阪2009実行委員会会長である平松大阪市長から表彰状を授与された。

◎市民企画プログラム「水辺の社会実験」(参照26～29P)

「水辺の社会実験」は、主体的に企画して自ら実施運営する市民グループを対象に広く公募し、65件の提案のなかから、企画の趣旨や実現性を検討し、41件を選定した。そして大阪市中央公会堂、水上劇場、八軒家浜船着場、若松の浜の各会場、そして会場周辺の川面を利用して実施された。

大阪市中央公会堂では、「水辺から考える～水都・川・環境を考える～」をサブテーマに、舟運や環境改善に関する提案やフォーラム、子どもたちを交えたワークショップ、独創的なアート、多彩な表現活動の実演など、多様な企画が実施された。水上劇場、八軒家浜船着場、若松の浜の各会場では、「水辺のにぎわい、水辺の楽しみ」をサブテーマとして、水辺空間で伝統芸能や伝統楽器、ブラスバンド、コーラス等のプログラムを市民参加型で実施した。会場周辺の川では、「川と親しみ・川を楽しむ」をサブテーマとして、ドラゴンボートの中之島や水の回廊の周遊、e-ボートでの体験クルーズ、淀川の葦を使った葦舟づくりなどのプログラムを展開した。期間中、会場周辺の川には様々な船が往来した。1万5,000人を越える市民の方々の参加と協働を得て、今後につながる人の輪や継続されるプログラムを試行できた。

・開催時期:2009年9月19日(土)から23日(水・祝)まで(5日間)
・開催場所:大阪市中央公会堂、水上劇場、八軒家浜船着場、若松の浜の各会場、会場周辺の川面

◎船着場プログラム(参照30～31P)

地域と連携・協働し、船着場とその周辺を地域のにぎわい拠点として活用するプログラム。

水の回廊沿いの4つの船着場(本町橋、太左衛門橋、湊町、大阪ドーム千代崎)を実施場所とする公募を実施。選定された5団体が地域住民をまき込みながら実施したプログラムは、河川空間を日常的に利活用する機運の醸成や地元へのノウハウ蓄積につながった。

◎「水辺の文化座」アートプログラム公募(参照14～19P)

全国からアーティストが集まり、体験型アート・プログラム(ワークショップ)を提供した「水辺の文化座」。市民からもワークショップを募集。67件の応募から20組の団体・個人を選出。造形系からパフォーマンス系まで様々なプログラムが選ばれ、来場者に多様な楽しみ方を提供した。

◎制作サポーター(ツクリヒト・アカリヒト)

「水辺の文化座」を中心に、アーティストの作品制作補助や、作品のメンテナンス、ワークショップの運営補助、観客の誘導、灯りプログラム実施など、会場運営に欠かせない多岐にわたる業務を約350名のボランティア・スタッフがを行い、水辺の文化座の屋台骨を支えた。

◎クルーズ&ウォーク/OSAKA旅∞(おおさかたびめがね) エリアクルー(参照36・38P)

OSAKA旅∞の各ツアーにおいて、大阪を愛する大阪人が自分のまちの魅力を案内していただくエリアクルー(まち案内人)を公募し、研修を行い、4月からのプレ実施で経験を積んだうえで、8月の本番開始に臨んでいただいた。ツアーの魅力もさることながら、エリアクルーの魅力がツアーの満足度を高め、ツアー参加者には大阪のまちと人の両方の魅力を実感していただいた。

■市民参加者数(人)

項目	説明	計
プログラム企画・運営関係者	市民企画プログラム等(事前説明会、準備会含む)	10,083
プログラム・作品等参加者	大阪ステキ発見、オープニングセレモニー、学校訪問ワークショップ等含む	56,980
サポーター、エリアクルー等	サポーター、エリアクルー、運営ボランティア等	12,548
計		79,611



●サポーター&ボランティア

数字で見る「水都大阪2009」

1. 開催日

・平成21年8月22日(土)～10月12日(月・祝)、52日間
※ただし、10月7日(水)～9日(金)の3日間は台風18号の影響で閉鎖したため、実質開催日は49日間。

2. 主なプログラム数等

アート関係(8/22～10/12)	延べ650プログラム 参加アーティスト171組
「水辺の社会実験」プログラム(9/19～9/23)	延べ87プログラム 参加団体41組
船着場プログラム(8/8～10/12)	18プログラム 参加団体5組
ナイトプログラム「水の回廊 時空の架け橋」	44日間 201回上演
大阪ステキ発見	応募数:841点 ※43日間、八軒家浜会場で展示。
クルーズ&ウォーク/OSAKA旅∞(おおさかたびめがね)	ツアー参加者:1,681人 プレ実施: 2009年4月25日～8月16日の土日祝 9エリア、10コース、524人参加
	本実施: 2009年8月22日～10月12日の土日祝 ☆定期プログラム 16エリア、17コース、890人参加 ☆プレミアムプログラム 6コース、267人参加
水都朝市リバーカフェ	出展者数:92団体

3. 来場者数

・延べ約189万6千人

月別1日平均来場者数	8月:約33,600人 9月:約39,800人 10月:約40,600人
曜日別1日平均来場者数	平日:約18,830人 土曜日:約50,750人 日曜日:約69,750人 祝日:約91,750人

4. 来場者の傾向

大阪市内	35.2%(37.0%)
大阪府内(市内除く)	38.9%(40.9%)
大阪府外	21.0%(22.1%) (近畿圏)16.2%(17.0%) (近畿圏以外)4.8%(5.1%)
無回答等	4.9%

※会場内で実施のアンケートの回答(3,204件)より。()内の数字は無回答を除いた割合。

5. 参加者数

会場開催前から、開催期間中まで、企画・運営・ワークショップ等に参加いただいた方々	延べ79,170人 《開催前》12,590人 《開催期間中》66,580人
--	---

6. 継続プログラム

北浜テラス(大阪川床)	3店舗(十六夜、てる坊、OUI)
クルーズ&ウォーク/OSAKA旅∞(おおさかたびめがね)	17コース 土日祝に実施
橋梁ライトアップ	3橋(錦橋、天神橋、難波橋)
一部アート作品	京阪中之島線換気口、福島港(ほたるまち港)

7. 広報・報道関係

・プレス資料提供(府政記者会、市政記者クラブ、経済記者クラブ)件数:41件

・記者会見回数:6回

・メディア露出件数

新聞	351紙(127紙)
テレビ・ラジオ	82回(59回)
雑誌	125冊(46冊)
フリーペーパー、機関紙、WEBその他	144件(41件)

※実行委員会設立時から2010年1月20日までの間で事務局が把握しているもののみ。()内は2009年8月～10月末まで。

・ホームページのアクセス数:約810,031件

※2008年2月にリニューアルしてから2009年12月31日まで。うち、会期中420,946件。

8. 経済効果等

パブリシティ効果	13億3,767万7,537円
経済波及効果	67億3,127万5,479円
税込推計額	7億2,662万1,413円

※2009年11月12日発表の大阪府立大学経済学部荒木研究室によるデータから。

9. 受賞関係

・平成21年度関西西元気文化圏賞大賞
「水都大阪2009実行委員会」



・大阪活力グランプリ2009 特別賞

「水都大阪2009と水辺の活性化事業」	
水都大阪2009実行委員会プロデューサー	北川フラム
同	橋爪紳也
平成OSAKA天の川伝説実行委員会委員長	土居年樹
北浜水辺協議会会長	大橋達夫
千島土地株式会社代表取締役社長	芝川能一
カーネルサンダース入形	

10. 水の回廊内船着場からの乗船実績

八軒家浜船着場	17,979人	福島港	1,505人
中之島ローズポート	16,685人	国際会議場前港	252人
太左衛門橋船着場	23,244人	大阪ドーム岩崎港	1,031人
湊町船着場	8,831人	大阪ドーム千代崎港	60人

(NPO法人大阪水上安全協会調べ)

※「水都大阪2009」で運航された特別クルーズ/
水都シャトル(八軒家浜～中之島)、水都クルーズ(中之島発着)、錦絵クルーズ(中之島回遊)、
アクアライナー「トワイライトボート」、水都号アクアmini「ミュージックボート」「水の回廊コース」他、
この他、期間中、土日祝日を中心に様々な船が運航。

協賛者等

<協賛>

●協賛企業 (順不同)

大阪ガス株式会社 株式会社大林組 関西電力株式会社 京阪電気鉄道株式会社 シャープ株式会社 住友金属工業株式会社 ダイキン工業株式会社 株式会社竹中工務店 西日本旅客鉄道株式会社 パナソニック株式会社 株式会社三井住友銀行	オリックス株式会社 オリックス不動産株式会社 鹿島建設株式会社 がんこフードサービス株式会社 株式会社かんでんエンジニアリング 関電システムソリューションズ株式会社 関電プラント株式会社 関包スチール株式会社 共英製鋼株式会社 株式会社クボタ 株式会社ケイ・オプティコム KDDI株式会社 株式会社鴻池組 株式会社神戸製鋼所 コカ・コーラウエスト株式会社 ユニコムホールディングス株式会社 五洋建設株式会社 佐川急便株式会社 住友物産株式会社 住友化学株式会社 住友金属鉱山株式会社 住友生命保険相互会社 株式会社住友倉庫 住友不動産株式会社 株式会社社経高組 象印マホービン株式会社 ソニー株式会社 株式会社損害保険ジャパン 大成建設株式会社 大同生命保険株式会社 株式会社大丸 太陽工業株式会社 株式会社電通 東海旅客鉄道株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 株式会社東芝 東洋アルミニウム株式会社 東洋紡績株式会社 南海電気鉄道株式会社 株式会社南都銀行 西日本高速道路株式会社 日清食品株式会社 日本ペイント株式会社 野村證券株式会社	ハウス食品株式会社 パナソニック電工株式会社 阪神高速道路株式会社 阪神電気鉄道株式会社 阪和興業株式会社 株式会社日立製作所 株式会社みずほ銀行 株式会社みずほコーポレート銀行 三井住友カード株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 三井不動産株式会社 三菱地所株式会社 三菱電機株式会社	株式会社 島津製作所 白山殖産株式会社 城山電子株式会社 新日本製鐵株式会社 住友精化株式会社 住友精密工業株式会社 株式会社泉州銀行 ダイダイン株式会社 株式会社ダイヘン 株式会社高島屋 辰野株式会社 椿本興業株式会社 株式会社椿本チエイン 株式会社帝国ホテル テレビ大阪株式会社 東亜建設工業株式会社 東東大阪株式会社 東リ株式会社 長瀬産業株式会社 株式会社西田洋行 エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社 学校法人エール学園 江崎グリコ株式会社 株式会社エネグート 株式会社大阪国際会議場 大阪国際空港ターミナル株式会社 株式会社大阪証券取引所 大阪ターミナルビル株式会社 大阪地区開発株式会社 株式会社大阪木材相互市場 株式会社岡村製作所 オムロン株式会社 関西テレビ放送株式会社 株式会社関電L & A 株式会社近鉄百貨店 株式会社京阪百貨店 鴻池運輸株式会社 コクヨ株式会社 株式会社サクラレパス 佐藤工業株式会社 サラヤ株式会社 株式会社産業経済新聞社 J F E スチール株式会社 株式会社シェル石油大阪販売所 シティプラザ大阪
---	---	--	---

●プログラム協賛 (順不同)

株式会社旭写真 株式会社アール・ワン 株式会社アレフネット 株式会社INAX 茨木工業株式会社 若崎電気株式会社 うまち貨自転車 E.B.S (Engineered Bike Service) エプソン販売株式会社 株式会社大北製作所 大阪工業大学ものづくりセンター 大阪大学 大阪府森林組合 株式会社オージーケーカプト ガイヤ株式会社 株式会社カーサ 株式会社加藤組 加藤林産株式会社 有限会社カリエラ 株式会社カワチ 株式会社キヤットアイ	Canon Mexicana, S. de R.L. de C.V. 京都造形芸術大学 株式会社クチーナ神戸 株式会社ケー・アイ・エス 株式会社ケイエフ 株式会社京阪神エルマガジン社 株式会社建築機能研究所 株式会社広告製版社 神戸芸術工科大学 株式会社小松屋 一般社団法人コミュニティマネジメント協会 株式会社コンパス 笹舟倶楽部 株式会社三和カンパニー 三洋電機株式会社 自転車ライフプロジェクト 株式会社J. フロント建築 株式会社下岡建設 株式会社ジャックエツ 城東紙器株式会社 新星商事株式会社	PS工業株式会社大阪営業所 Fundación Televisa 株式会社ボーネルンド ホルベイン工業株式会社 株式会社創竹 ターナー色彩株式会社 株式会社大伸社 株式会社高澤製作所 高島屋スペースクリエイティブ株式会社 株式会社タミヤ 千島土地株式会社 テクニカルアーム有限公司 テクノナミケン株式会社 東洋インキ製造株式会社 株式会社中川ケミカル 株式会社ニコンイメージングジャパン 株式会社ニッシンイクス 日本建設株式会社 株式会社日本電装 パナソニックサイクルテック株式会社 ハマヤ株式会社 ハリオガラス株式会社
---	--	---

<助成・認定>

●プログラム助成・認定 (順不同)

平成21年度紀州材需要創出事業(公共施設整備等)補助金	(社)企業メセナ協議会認定
-----------------------------	---------------

※協賛、プログラム協賛、プログラム実施、プログラム協力等、多岐にわたってご協力いただいている方々につきましては、紙面の関係上、ご芳名の掲載をまともさせていただきます。
 ※上記・右記掲載の皆さまの他、水都大阪2009実行委員会・同企画調整委員会構成団体の皆さま、マスメディア各社の皆さま、地域の皆さま、サポーター、ボランティアの皆さま、ご来場いただきました皆さま、運営・警備に携わっていただきました皆さま、連携事業にご協力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

プログラム実施者・協力者等

<プログラム実施者> (順不同)

アートフル千成瓢箪プロジェクト実行委員会 アートベスナル 愛知県立芸術大学デザイン専攻 柴崎幸次、細川修 iop都市文化創造研究所 浅井裕介 芦澤竜一建築設計事務所 アトリエスガ ワークショップ部門 安部泰輔 新井英夫 荒木珠奈 E-DESIGN 池上恵一・真下武久 池田光宏 石垣克子 石坂玄士 磯崎道佳 磯辺行久 稲垣智子 井上信太 ima 今西玲子×AKI UEDA×evala 今西玲子×ニッポン・ガールズ 今村源 井村隆 岩下徹 岩下徹+慧奏 岩瀬拓郎 岩村原太 植松琢磨 うたたね 宇野万斎 ウミ下着×玉那覇プラスクインテット 浦田琴恵 EGG EXPERIMENTAL3 HamanaH 林加奈 林正夫 原高史 原明里 パラモデル 原倫太郎 バル・フレナック 東野健一 ひきたま&ドゥンドンサラサ	大阪文化調査隊 大阪ものづくり塾 尾方孝弘 小沢剛 音遊びの会 オフィスザイレガシー 開発好明 空間浩幸+こども環境研究会関西 片桐功敦 加藤治男 アトリエまあん 金子良のひアニキ 佳山隆生 河口龍夫 KIKIKIKIKIKI×Pao キスヒサタカ きたまり NPO法人キッズデザイン協議会 「こどもOS研究会」 木村泰子 C.A.P 鞍掛綾子 graf グリーンプラザーズ 栗林隆+coceworks 黒子さなえ NPO法人芸術環境計画 月眠×ゲートオブドラゴン ゴールドフィンガーズ 小島剛+一楽儀光(a.k.aドラびでお) KOSUGEI-16 子供館人 contact Gonzo 酒百宏一 サカキマンゴ&リンパトレインサウンドシステム 笹岡敬 榎本寿紀 海老沢一仁 エムズスキ Emer 逢坂卓郎 大久保英治 NPO法人大阪アーツアポリア 大阪アンサンブル振興会 大阪ええはがき研究会 社団法人大阪府建築士会	NPO水都OSAKA水辺のまち再生プロジェクト 樋口寛人 ビッグ・ビッグ・バンド 日比野克彦 平野治明 藤宙宙 藤浩志 二名良日 フレイレフ・ジャンボリー 法政大学国際化学学部 稲垣立男研究室 ソカ・タルナ 高田雄平 武田高明 タオと横沢 橋宣行 田辺朋宣 谷山恭子 NPO法人ダンスボックス チャンキー松本 チャンチキトルネエド 中高音ミュージカル劇団NPO法人発起塾 椿昇(RADIKAL_DREAM) つるむde大阪 テイストオブフォークロアウンジオーケストラ 凸&凹 飯田英樹 中川真+佐久間新・Rofit Ibrahim 西尾美也 西沢みゆき 日本建築家協会近畿支部住宅部会 (設計:小山隆治、所千夏) 根岸和弘 neco眠る ばうみみ 萩野美穂 Haco+田尻麻里子 長谷川仁 梓梓 HamanaH 林加奈 林正夫 原高史 原明里 パラモデル 原倫太郎 バル・フレナック 東野健一 ひきたま&ドゥンドンサラサ
--	---	---

アクアスタジオ 遊んで大阪の川をきれいにする会 天つ風 Aru (アール) A-yan!!関西をアートで盛り上げるNPO NPO法人雅夢 NPO法人関西シヨナル・トラスト協会 NPO法人芸術環境計画 NPO法人こども盆栽 NPO法人さをりひろば NPO法人夢乱舞 大阪市人形劇連絡会	大阪大学 ビジネスエンジニアリング演習チーム 大阪トマソン 大阪府ドラゴンボート協会 大阪の子どもたちを水辺に誘う会 大阪まちなみサーベイ 近木川流域自然大学研究会 財団法人音楽文化創造生涯学習 音楽指導員研究会ネットワーク・大阪 財団法人山本能楽堂 社団法人大阪青年会議所 子どもの笑顔創造委員会	新視角 水都の会 葦船プロジェクト 淡水魚ミュージアム「雑魚寝館」 Tourbillon 水辺のリサイクル・ファッションショー 実行委員会 都市政策研究機構 直木三十五記念館 日本民謡 隆勢会 ハーモニーマちづくり研究会 琵琶湖・淀川流域連携交流会 FUROSHIKI
--	--	---

実行委員会「総栄ミナミ」 千代崎連合振興町会 東横堀川水辺再生協議会(e-よこ会) ミナミジャズウォーク実行委員会	十六夜 て坊 OU I	株式会社アートフロントギャラリー 株式会社インプリージョン NPO法人大阪再生プラットフォーム 株式会社カクサス 株式会社ジェイコム
--	-------------------	--

<プログラム協力> (順不同)

一富士ヶーティング株式会社 株式会社アイ・ワン アクトレップ株式会社 茨木工業株式会社 稲畑産業株式会社 植松英之 株式会社エーワイ電子 E.B.S (Engineered Bike Service) 株式会社オーク情報システム 大阪海洋博物館一なにわの海の時空館 大阪学院大学高等学校 大阪市漁業協同組合 大阪コミュニティ・リズム推進連絡協議会 大阪シティクルーズ推進協議会 大阪市中央卸売市場総合直売協同組合 大阪市立相生中学校 大阪市立阿倍野小学校 大阪市立生魂小学校 大阪市立育和小学校 大阪市立市岡小学校 大阪市立今福小学校 大阪市立榎並小学校 大阪市立大和田小学校 大阪市立勝山小学校 大阪市立北恩加島小学校 大阪市立九条東小学校 大阪市立港嘴小学校 大阪市立大学都市研究プラザ 大阪市立玉川小学校 大阪市立中大江小学校	大阪市立西天満小学校 大阪市立野里小学校 大阪市立福小学校 大阪市立都島工業高等学校 大阪市立吉野小学校 NPO法人大阪水上安全協会 大阪大学 大阪天満宮 大阪天満宮どんどこ船講 大阪桐蔭高等学校サッカー部 財団法人大阪府都市整備振興センター 大阪府立柴島高等学校サッカー部(男子・女子) 大阪府立堺工科大学サッカー部 大阪府立吹田東高等学校サッカー部 大阪府立青少年海洋センター 大阪府立刀根山高等学校サッカー部 大阪府立中之島図書館 大阪府立阪南高等学校サッカー部 大阪府立東淀川高等学校サッカー部 大阪府立藤井寺工科大学サッカー部 社団法人大阪府サッカー協会 NPO法人大阪・水かいどう808 大林ファシリティアーズ株式会社 大林不動産株式会社 オフィスマリネット 株式会社真組 かけはし+ハコプロ 交野市 交野市星のまち観光協会 交野市立妙見坂小学校	カラウナエンターテイメント NPO法人環境共生都市推進協会 関西クラブユースサッカー連盟 関西国際空港株式会社 関西鉄道協会 株式会社岸本 北浜東振興町会 北浜水辺協議会 キッズ・ドラマーズ キッズプラザ大阪(大阪市教育振興公社) 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科 株式会社共和工業 京阪電車なにわ橋駅アートエリアB1 NPO法人広報写真ボランティア 国立国際美術館 古座川アドベンチャー倶楽部 komameworkshop 株式会社さくらコーポレーション 産経新聞開発株式会社 食のデザインスクールレコールパンタン 株式会社昭和造園土木 水都大阪2009飲食ブース建設実行委員会 ユニオン造形文化財団 株式会社スウィングカード 鈴木真吾 株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント タイワラクダ工業株式会社 株式会社高澤製作所 宝島造形有限会社 タムタムカンパニー	茶屋町画廊 学校法人塚本学院 辻学園調理・製菓専門学校 適塾 テクニカルアーム有限公司 中之島高速鉄道株式会社 日本銀行大阪支店 日通航空・日通旅行 北浜水辺協議会 キッズ・ドラマーズ 日本ケンタッキー・フライドチキン株式会社 ネクスツステージ大阪LLP 株式会社はちけんや パナソニックネットワークサービス株式会社 株式会社共和工業 京阪電車なにわ橋駅アートエリアB1 NPO法人広報写真ボランティア 国立国際美術館 古座川アドベンチャー倶楽部 komameworkshop 株式会社さくらコーポレーション 産経新聞開発株式会社 食のデザインスクールレコールパンタン 株式会社昭和造園土木 水都大阪2009飲食ブース建設実行委員会 ユニオン造形文化財団 株式会社スウィングカード 鈴木真吾 株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメント タイワラクダ工業株式会社 株式会社高澤製作所 宝島造形有限会社 タムタムカンパニー
---	--	--	---

水都大阪2009プロデューサー
アートディレクター

北川フラム

人と場所の出会いとしてのプラットフォーム

「水都大阪2009」は、アートを手がかりとして、近代化の過程で埋もれてしまった水都・大阪の魅力を再発見し、水の回廊を活かした新しい大阪のイメージを発信するとともに、多様な人々の参加と協働の場を作り出すことで、これからの大阪のまちづくりの契機とすることを目的としていた。結果として、幅広い年齢層の来場・参加や、学校・地域を巻き込んだ活動の展開、多くのサポーターの参画などが実現した。

中之島公園会場で170組を超えるアーティストが連日、ワークショップやイベントを繰り広げたが、参加者と双方でつくりあげるワークショップは、大阪人ののりの良さにうまく合致し、大いに盛り上がりを見せ、アーティストにも「大阪人」の参加意識の高さを印象付けた。また、学生を中心としたサポーターが多数参加し、長期にわたりアーティストと協働し、多様な来場者と接する機会を得たことは、これからの大阪の「人づくり」の大きな萌芽となった。また、多様なNPOや都市に関わる専門家、クリエイターたちが関わって全体を支えたこと、「人」もまた大阪の大きな資産であることを記しておきたい。

アーティストでは、ヤノベケンジ、藤浩志、KOSUGE1-16 が中核的な作品を提供した。ヤノベのラッキードラゴンのパフォーマンスは、メディアや市民に大きな話題を提供し、会場間をつなぐ役割も果たした。水辺の文化座では、藤浩志、KOSUGE1-16をはじめ多くのアーティストが多様な表現を展開し、人と人、場と場をつなぎ、大いに盛り上げ、波及力をもった。しかし、作品の予算に比べ、管理予算が膨大となった為、もっと大きな可能性が殺がれてしまったことは残念である。

また、サポーターが多数登録し、継続的に関わった意味は大きい。大阪には若いエネルギーがあり、彼らは協働の場を求めている。彼らのエネルギーを活かし、協働の場を作り出すためにも、小異を捨て、大同に集まるような仕組みが必要だと思う。

メディアの論調や市民の声も、ほとんどが好意的であった。博覧会型の一方的なイベントではなく、都市の公共空間をうまく利用したこと、参加型であったこと、自分のまちでも何かできそうという期待感を持ってたことなどが評価されたものと思われる。今後の取り組みの大きな方向性であろう。

◎課題として

水都大阪の再生のために大阪府・大阪市・経済界のオール大阪体制の取組みが今回初めて実現したことは、非常に意味のあることであり、是非この枠組みの継続が望まれる。

ただし、継続するにあたっては、今回参加した多様な人々がともに協働できるプラットフォームを立ち上げることが喫緊である。水都大阪の大きなミッションに基づき、適材適所の人材が協働し、都市づくりに直接参加できる仕組みこそ、「水都大阪2009」で立ち現れた精神を継承することとなる。

また全国、世界に向けての発信力を高めるための都市PRやキャンペーン方法に工夫の余地がある。大阪が取組む強いメッセージを首長が発信していくことが必要である。

今回実現した、規制緩和や組織作り、新しいルールの確立とともに、アートが持つ「人を巻き込む力」、「場を発見する力」を大阪のまちづくりに波及させていくことが重要である。出前ワークショップなどによる小学校や地域に広がった活動の展開をまちづくりに繋げるため、大学や商店街、コミュニティ、団体などとコラボレーションを実施していくことが重要である。

また、世界のアーティストや有識者を受け入れ、志ある地域とコラボレーションすることがもっとあってよい。人材育成という視点においても、世界の人が活躍する場を大阪が提供するということが、大阪の再生や発信力強化には重要である。

水都大阪2009記念シンポジウムは、多様な分野の専門家が一堂に会し、次代の大阪のあり方について率直な議論を展開する場となった。参加者からも質の高いシンポジウムであったと評価されており、この議論の内容を今後のまちづくりに反映させるような取り組みをしてほしい。また、今後もこのような多様な層の人々が参画する議論の場を継続、発展させていくことを願っている。

「水都」の未来に向けて ムーブメントを継続するために

■「イベント」ではなく「ムーブメント」として

20世紀前半、近代都市をめざす過程で、大阪は自らを「水の都」と呼んだ。水路沿いに創出したベネチアやパリにたとえられる美観を、さらには淀川が海に注ぐ埋立て地に発達した都市の歴史そのものを、市民はわが街の誇りとして語った。しかし20世紀後半、高度経済成長を遂げる代償に、私たちはプライドの拠りどころであった川との関わり合いを忘れ去っていった。

ようやく21世紀になって、都市再生の必要を掲げるなかで、いまいちど都市の誇りを回復しようという動きが顕在化した。生命の源である「水」の意味、私たちの活動の場である川の価値を見直すべく企画された「水都大阪2009」は、その契機となるものだ。

中之島公園や八軒家浜界隈など再整備された河川空間を、市民活動の舞台とすることで、「水の都」という都市ブランドの再創造をはかる。それが市民のシビック・プライドを高め、外部からの憧れを喚起、結果として文化や産業に関わる新たな活動呼びこむ。活性化することで、さらに都市のブランド力は向上することになるだろう。

私はこのような「良い循環」を大阪にもたらしたいと考え、企画の当初より「水都大阪2009」の一連のプログラムは、都市再生事業の竣成を祝う祭りではなく、多彩なまちづくり活動を始め、大阪が変わることを広く発信する機会であるべきだと強調してきた。沈滞化した大阪に必要なのは、一過性の「イベント」ではなく「ムーブメント」である。この確信のもとに、「水都大阪2009」のプロデューサーを担ってきた。

■市民の力を結集

いかにして人々の想いを川に向けるのか。私たちは「市民企画プログラム」を「水都大阪2009」の中核に据えた。「川と水辺を利用した市民による“社会実験”プログラム」、「『水辺の文化座』アートプログラム」、「船着場プログラム/地域協同企画」の3部門を公募、さまざまなワークショップや催しが期間中に展開された。従来、河川の利活用や水問題に関心を持っていたNPOや市民グループに加え、文化活動に関与してきた人々や商店街・連合町会などにも、水都大阪の中核をなす水辺という公共空間の可能性に注目して欲しいと訴えた。

結果として、多くの市民に水辺の会場に足を運んでいただいた。大阪府立大学観光産業戦略研究所の同僚である荒木教授は、67億3千万円の波及効果があったと算出した。対外的に発信された情報を鑑みれば、十分に成功であったとみてよいだろう。もちろん統計的に算出される「量」の評価だけではない。これまでにない風景に感動し、「水の都」という都市ブランドを再構築することの意義に共鳴していただけた。市民の力を結集したことで、「質」の面でも十分に当初目的を達成したと確信する。

■ムーブメントを継続するために
「社会実験」から「日常」へ

最後に、「水都大阪2009」は一過性のイベントではなく、継続するムーブメントであるという点を再確認しておきたい。今後は、2009年度に実現した提案や実践、さらには新たなアイデアをいかに継承してゆくのが重要になる。たとえば「北浜テラス(大阪川床)」や「中之島バンク」など河川空間の規制緩和によって実現した事業、堤防や公園のライトアップ事業など「社会実験」として行なわれた各プログラムは、継続してなおいっそうの充実をはかり、「日常」に転じてゆく必要がある。

そのためにも「水都大阪2009」の理念と成果を継承する組織には、10年後の「水の回廊」を想定し、ハードとソフト、双方のプログラムを組み込んだ新たなビジョンを作成することを求めたい。同時に、しばしばイベントを重ねながらもその一部を常設のものとして、美観創出に舟運の活性化も併せて、「水と光のまちづくり」の理想を実現する、新たなイベント・オリエンティッド・ポリシーの確立が必要である。さらには、その実現に向けて実効性のある事業推進をはかるべく、再度、「オール大阪」の体制を組まれることが望まれる。

水都大阪2009プロデューサー
大阪府立大学
21世紀科学研究機構教授

橋爪紳也

あ と が き

平成14年9月30日に水都大阪2009実行委員会の母体組織である「花と緑・光と水懇話会」が府・市・経済界等のトップによって設立され、翌10月1日に「水の都大阪再生協議会」が設立され、水都大阪の再生に向けた取り組みが本格的にスタートしました。前者が主としてソフト事業、後者が主としてハード事業を中心に展開しているとはいえ、ともに『難波宮の頃から水とともに発展してきた水の都・大阪を再び見直し、発信していこう』という認識は共通しておりました。それからおよそ7年後の平成21年8月22日、基本構想当時まだ名前もなく、シンボルイベントと呼ばれていた「水都大阪2009」が、その実施内容について関係者で合意を見ることができ開幕に至りました。本冊子は10月12日に無事フィナーレを迎えるまでの記録の一部です。

平成19年5月7日、水都大阪2009実行委員会及び同事務局が立ち上がり、基本構想、基本計画、実施計画、運営計画と、準備をすすめてきたわけですが、様々な紆余曲折の後、なんとかこのような報告書作成までたどりつきました。従来型の博覧会タイプでない新しい形のまちづくりイベントというコンセプトのもと、チャレンジ的な事業である一方、試行錯誤の連続でもありました。

反省点は多くあります。直前まで具体コンテンツが決まらないものもあり、十分な事前告知ができないまま開幕を迎え、メディアをはじめ、関係者間でも「名前は聞くようになったが何をするのかよくわからない」という声が圧倒的でした。実際、「ああ、水都大阪2009ってこういうものだったのか」という声も多く聞きました。

開幕前あたりからメディアにもしばしば取り上げていただいたこともあり、日が経つにつれて徐々に内容が伝わり、来場者も増えてきました。開催期間中は各会場で昼夜にわたり、多様なプログラムを展開しましたが、来場者から大阪の魅力を再発見した、水辺空間での楽しさが体感できたという声をいただきました。「水都大阪2009」の会場では、子どもたちが生き生きとした表情で遊び、大人たちも観たり、つくったり、参加する面白さのあふれた空間が創出されたと思います。

会場内で実施した3,200以上ものアンケートには、コンテンツが面白かったという声とともに、中之島や水辺などの景観・場所の美しさに言及したコメントも多くありました。

基本構想の中に『市民がリードする「大阪」ブランドの確立』という言葉があります。これは、「水都大阪2009」のめざした2つの方向を表しています。

一つは、このイベント開催によって大阪の魅力を再発見し発信するということ、そして「大阪＝水都」という都市ブランドを国内外に定着させるきっかけとすることです。

もう一つは多くの方々に大阪の魅力に気づいていただき、まちづくりに積極的に関わっていただくことです。すでに各方面でまちづくり活動をされている方々をはじめとする市民とコラボレーションを行い、大阪のまちづくりの盛り上げにつなげることです。またそのムーブメントを大阪の企業や団体にも輪を広げていくことです。それが大阪を元気にする近道でもあります。

その意味で、「水都大阪2009」はキックオフ・イベントの役割を十分果たせたのではないかと考えます。今後、それをどうつなげていくかが新たな大阪の取り組みとなります。

「連携・継承・継続」をキーワードに取り組んだ「水都大阪2009」を振り返りつつ、あわせて、今後、地域活性化や都市再生の方向性をさぐるモデルとして、当冊子が多少なりとも関係者の皆さまのお役にたつならば幸いです。

水都大阪2009実行委員会事務局
事務局長 室井 明

